

令和7年度 学校評価報告書

令和7年3月16日

北海道教育委員会教育長 様

北海道大樹高等学校長  
高橋 豊 印

次のとおり令和7年度の学校評価について報告します。

1 本年度のスクールポリシー

1 育成を目指す資質・能力に関する方針
(1) 自他を尊重する豊かな心を持ち、多様な人々が共に生きる共生社会を、支える人材となる生徒（共生） (2) 自学と探究する力を持ち、主体的に地域共創へ参画し、新たな価値を創造していく生徒（共創）
○教育課程の編成及び実施に関する方針
(1) 授業のユニバーサルデザイン化の深化を通じ、主体的に学ぶ姿勢の向上と個に応じた最適な学びの実現による基礎学力の定着に努める。（大樹スタンダードの確立） (2) 教科横断と地域協働による課題解決型学習の改善・充実を通じ、思考力・判断力・表現力の伸長と自ら社会的課題の解決へ参画しようとする態度の育成に努める。（地域探究学習「大樹学」の推進）
○入学者の受入れに関する方針
(1) 多様性や共生社会について興味・関心を持ち、様々な人々との協働をとおして、自他を尊重する豊かな心を身につけようとする生徒（共生） (2) ふるさとに愛着を持ち、本校の探究学習をとおして、主体的に地域の課題解決に取り組もうとする生徒（共創）

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業改善、成績評価(観点別)について、教員・生徒ともに評価が高い。</li> <li>△主体的な学び・家庭学習について、教員と生徒との評価に差がある。</li> <li>○スタディサプリの全校生徒導入、キャリア教育など、学ぶ意欲を高めるための取組を行うことができた。</li> <li>○地域探究活動の生徒の満足度は高く、探究成果発表会や高校生議会に参加した関係者からも高評価であった。来年度は、地域探究科1期生が3学年となり、3年間の取組の成果を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業のレベルや内容に満足している生徒が多く、授業改善や個に応じた工夫が適切に進められている。</li> <li>○定期考査は実施していないが、単元テストや観点別評価について生徒が理解できており、適正に行われている。</li> <li>△家庭学習等、自ら進んで勉強に取り組んでいる生徒が少ない。</li> <li>○スタディサプリの活用内容について、学校関係者等への周知が不足している。</li> <li>○探究成果発表会の様子から、生徒の成長が感じられた。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初に「大樹スタンダード」の明確化と「地域デザイン」「キャリアデザイン」について、校内で研修を行い、持続性、定着性に取り組む。</li> <li>・各教科において単元テスト等を行う際、2週間前には生徒へ連絡することを徹底し、家庭学習を行う機会を意図的・意識的に設ける。</li> <li>・スタディサプリアや新聞、読書等を活用した、朝学習の充実を図る。</li> <li>・これまでの取組の工夫・改善を図るとともに、探究学習や教科等横断的な学習、学習意欲を高めるための手立てを強化していく。</li> <li>・地域探究科3年目の来年度は、探究学習を実践していく中で、主体的に地域共創に参画する生徒を育成していく。</li> </ul>	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめ防止対策の評価は、教員・生徒・保護者の三者共通で最も評価が高い。</li> <li>○コミュニケーションスキルトレーニングの実施が、望ましい人間関係の形成やいじめ未然防止に結びついている。</li> <li>○身だしなみについては、教員は指導が必要と感じているが、生徒、保護者からの評価は高い。</li> <li>○面談週間、にじいろ委員会やいじめ防止対</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○安心して学校生活を過ごしており、互いを尊重した人間関係を築くことができている。</li> <li>△地域の人と会った際、挨拶をすれば返ってくるが、高校生から先に挨拶ができるようになると更によい。</li> </ul>

	策委員会による生徒の情報共有や校内研修の実施など、教育相談・サポート体制は機能しており、落ち着いた学校生活を送る生徒が多数である。	
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己管理や自律心の成長につながる行事等の実施を進める。長期休業中は、スマホの使用等による就寝・起床時間に乱れのある生徒が見られるため、家庭とも連携し、規則正しい生活習慣の指導を継続していく。</li> <li>次年度も面談週間や長期休業明け生活アンケートなどを実施し、にじいろ委員会やいじめ防止対策委員会を定期的に開催するなどして、生徒が安心・安全に学校生活を送れる取組を継続していく。</li> <li>次年度もコミュニケーションスキルトレーニング等を通じて、個性を尊重し認め合う心と主体性を持って自己選択・決定できる力を育成していく。</li> </ul>	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○インターンシップや進路強化研修、学校説明会や企業説明会等を地域や関係機関と連携し実施することができた。</li> <li>△2学年のキャリアデザイン・大樹高Plus等において、情報提供の充実等、進路指導計画の見直しが必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校でのキャリア教育を通して、学年が上がるにつれ、将来について具体的に考え、必要な情報等を収集することができている。</li> <li>○国公立大学の合格者が毎年おり、大樹高校を評価する声が聞こえている一方で、進路結果等の情報発信が不足していると感じている。</li> <li>△オンライン放課後学習サポートを今年度から開始したようだが、周知が不足しており、参加者増に向けた工夫・改善を図ってほしい。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度も生徒の進路希望に応じた取組を充実・発展させる。総合的な探究の時間（キャリアデザイン）を中心に、関係機関と連携した系統的キャリア教育を実践していく。</li> <li>次年度も生徒の進路希望に応じた個別最適な取組を充実させる。様々な職業に就く大人との対話から、自身のキャリアについて考える機会を作るなど、望ましい勤労観や職業観の育成に向けた取組の充実を図る。</li> <li>学力テスト・学習等状況調査の客観的なデータの活用や過年度生の取組等との比較などから、生徒・保護者へ適切な情報提供に努めていく。</li> <li>進学、就職共に、模擬試験の年間計画表を明示し、計画的に取組を促す。</li> <li>オンライン放課後学習サポートの参加者増に向けて、地域の協力も含めた取組等の充実を図る。</li> </ul>	
地域協働による魅力ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校ウェブページや町広報への掲載、学校PRポスターの作成・配布、学校パンフレットの作成・配布、各種学校行事や授業の公開などを通じ、本校の取組を広く発信を行うことができた。また、SNSを活用し、生徒による学校生活の様子等を配信した。</li> <li>○地域探究活動への関係機関および地域住民の参加、町教委および町議会の支援による高校生議会の開催、学校運営協議会や大樹高校活性化推進協議会からの支援や助言など、関係機関・地域と連携を密にしながら、教育活動を推進できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>△学校の取組についての情報発信は、更なる工夫、改善が必要である。</li> <li>○スタディサプリ連絡配信について、タイトルや本文等、確実に内容を確認してもらえるような工夫が必要である。</li> <li>○大樹町と協力し、道外からの生徒募集(地域みらい留学)を行い、今年度は道外1名の入学生を確保できた。大樹町がシェアハウスを準備したので、次年度以降も地域みらい留学制度を活用し、生徒募集活動に取り組み、複数名が入学してくるよう一層努めてほしい。</li> </ul>
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度も保護者、関係機関、地域と連携・協働した学校づくりを推進し、共生社会を支え、新たな価値を創造していく生徒の育成に努める。</li> <li>小・中・高が連携したキャリア教育「大樹学」を軸に、学校間連携を密にしていく。</li> </ul>	
公表方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価、保護者評価、生徒評価を学校運営協議会において、資料に基づき報告した。</li> <li>学校評価報告書、自己評価、保護者評価、生徒評価を学校ホームページにて公開する。</li> </ul>	